



森林の流域

南北に細長い地形に脊梁山脈を持つ日本では森林のほとんどが、急峻な山岳地帯にあり山仕事には大変な労苦が伴います

戦後の住宅不足から、拡大造林が行なわれましたが伐期を迎えた現在、市場環境の変化のために杉・檜は、行き場が見えない状況にあります予測がつかない長いスパンを必要とする林業にとって変化の振れ幅が大きい現代社会は対応しづらい時代なのでしょう

解決の糸口を見出すのは、なかなか大変なのですが世界も日本も

林業も生態系も山間地の暮らしも見るべきこと、知るべきことが、山積しています分断された森林の機能を、流域の発想で包括的に見ることも新たな糸口発見につながるのではないのでしょうか

まずは、希望の光が見えるモデルを探しに森林に足を運び、またさまざまな方面からアプローチをしている人に話を聞くところから始めました

水の文化 34号 2010年2月

特集「森林の流域」

風土への目利きで多様な森林利用を

ブナ林帯文化論の復権 市川健夫

林政史が語る日本の森 永田信

求められる長いスパンと広い視野 森の保全と物質循環 徳地直子

森を守るために消費地が今できること 半谷栄寿

森林豊かな山地からの土砂の問題 土砂災害と土砂資源 藤田正治

森林からの警告 石弘之

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部の挑戦 水の文化学習実践取材

新しい「クニ」の形 編集部

文化をつくる 木も見て 森も見る 編集部

シリーズ里川 多摩川源流研究所 源流を極めると森林再生に行き着く 中村文明

水の文化書誌 森の国土環境保全論 古賀邦雄

ミツカン水の文化交流フォーラム2009報告

インフォメーション

協同組合ウッドワークの会員がつくった、杉テーブルの天板アップ。堅木と呼ばれる広葉樹と杉・檜などの針葉樹とは、使う刃物の角度のつけ方からして異なる。建具づくりを生業として、針葉樹を扱い慣れていた職人ならではの「角の立った」仕上がり。